横浜市立山王台小学校

平成２９年4月２８日

山王台だより　5月号

横浜市磯子区磯子５丁目２－１　TEL０４５（７５５）１１０７

親の生き方

校長　　志田　一彦

校庭の木々の若葉が日ごとに鮮やかになり、薫風にその葉を揺らす季節となりました。
先週の授業参観、懇談会には多数の保護者、地域の方々のご参観をいただき、ありがとうございました。新年度が始まってから間もない時期での開催でしたが、お子様の学校での様子はいかがだったでしょうか。

授業参観当日、私は各クラスの授業を参観しながら、自分が小学生だった時の授業参観を思い出していました。私の両親は共働きをしていたので、めったに授業参観に来ることはなかったのですが、たまたま、父の仕事が休みになり、初めて父が授業参観に来たことがありました。

６年生の国語の授業でした。先生から事前に漢字の意味調べが宿題として出され、授業参観ではそれを発表することになっていました。前日の夜、私は辞書で漢字の意味を調べ、ノートに書き留めていました。父もニコニコしながらその様子を見ていました。
ところが、当日、そのノートを家に忘れてきてしまったのです。

授業が始まり、先生が宿題について一人ずつ指名していきました。私の番になり、私はドキドキしながら「昨日やったんですけど、ノートを忘れました。」と答えて着席しました。私は初めて授業参観に来てくれた父に対して、恥ずかしい気持ちでいっぱいでした。

その日の夕食時、私は宿題を忘れたことを父から何か言われるのではないかと、内心ヒヤヒヤしながら「宿題、忘れちゃったよ。」と切り出しました。すると、父は「昨日、がんばっていたのにな。調べたんだから自分のためにはなっただろう。」と言い、こう続けました。「でも、忘れた時は、『忘れました。』のひと言でいい。『やったんですけど』とは、言わない方がよかったな。」

父は宿題を忘れたことよりも、その時、私がとった態度を指摘したのです。怒るでもなく、諭すでもなく、穏やかに語る父のその言葉に、私は食事の箸が止まり、なぜか涙がボロボロ溢れてきました。怒られるかもしれないと思っていた情けなさのためか、言い訳をした恥ずかしさのためか、言葉にできない感情がわき起こりました。その時の父の言葉は、忘れられない授業参観の思い出として、今でも私の心に刻まれています。そして、父の生き方に触れた瞬間でもあったと思います。

子どもは親との会話を通して、様々なことを学びます。親子で食卓を囲みながら、いろいろな話をしてみてはいかがでしょうか。親の何気ない言葉からも、子どもは「親の生き方」を感じているのですから。

音楽朝会…ぜひ、ご来校ください。

５月２９日（月）８時20分より　本校体育館

子どもたちの歌声を今年度もお聴きください。そして、ぜひ子どもたちと一緒にお歌いください。